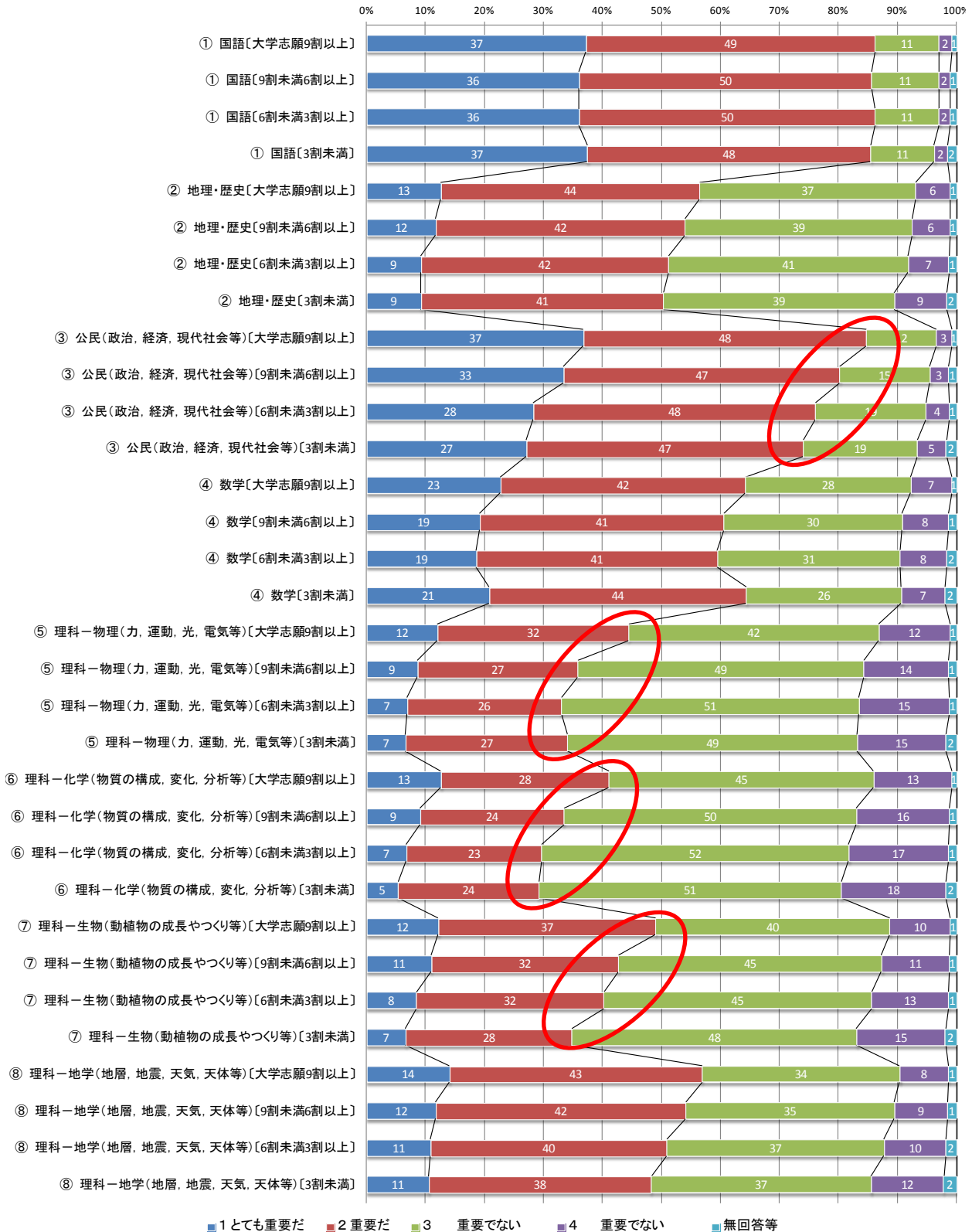
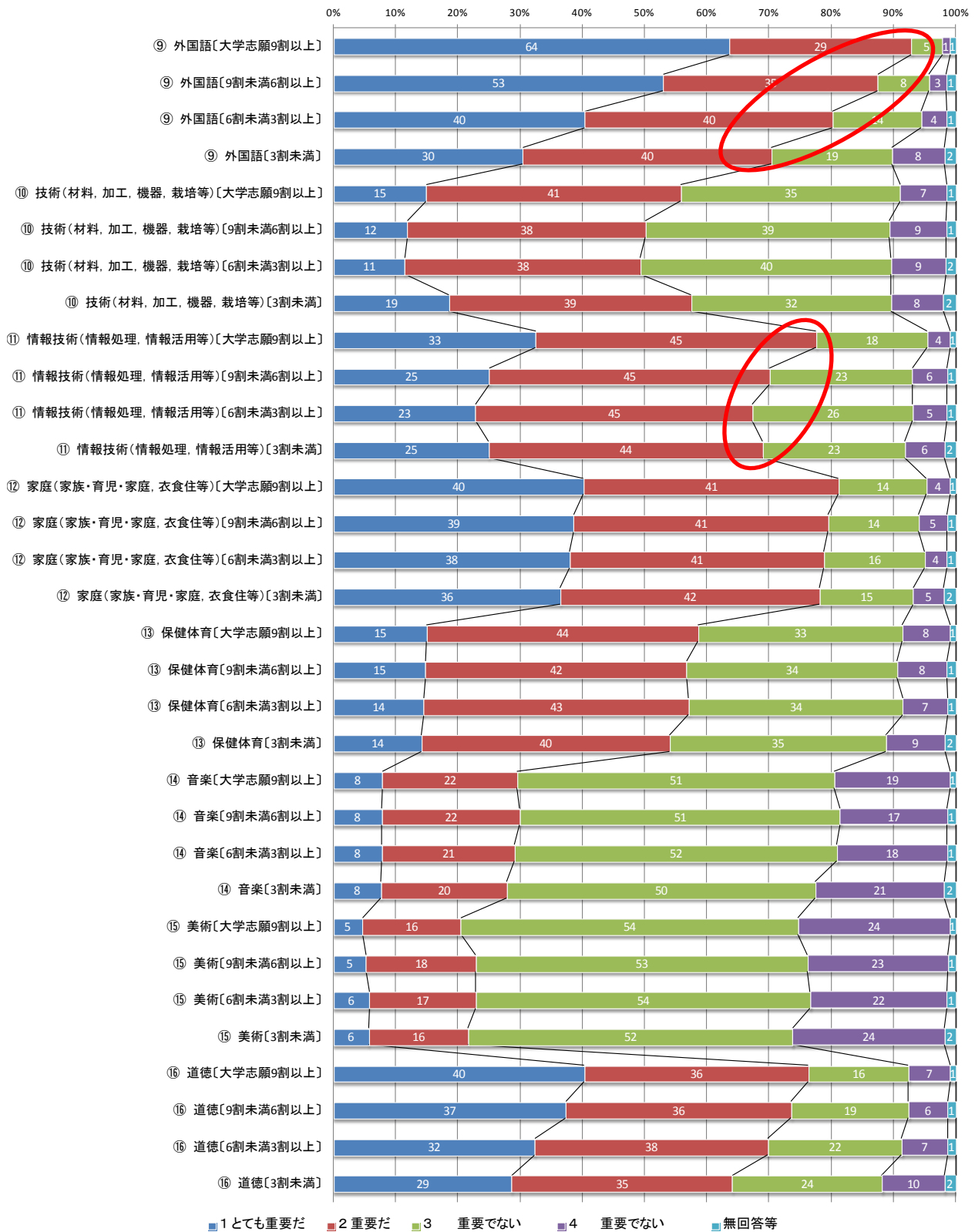


割合を示す傾向が見られる。この傾向が顕著に見られる教科は、「公民」「外国語」「情報技術」である。理科については、「物理」「化学」「生物」に関して、「とても重要だ」「重要だ」と意識している生徒の割合が、大学志願者9割以上の学校でやや高い【図4-①、②】。

【図4-①】あなたが将来生きていく上で重要な学習—高校1年生
(大学志願者割合区分別：国語～理科)



【図4-②】あなたが将来生きていく上で重要な学習—高校1年生
(大学志願者割合区分別：外国語～道徳)



② 追加的に行った分析結果のまとめ

全国意識調査の結果のうち普通科高校について、コース選択の有無によって、また、理系・文系の選択の時期や分割時期の違いによって、各教科（科目）に対する生徒の好感度、重視度、中学時代からの好感度の変化、将来の進路意識に違いがあるのかを明らかにすべく、追加分析を行った。

（注）分析に当たっては、普通科高校に在籍する3年生の回答を、在籍校の大学志願者割合で区分して比較を行った。全教科（科目）について分析したが、以下では代表的な教科として数学の分析結果を記載した。

ア. コース選択の有無による生徒の意識の違い（高校3年生）

教科（科目）に対する生徒の好感度・重視度は、コース選択のある学校の生徒の方が高い傾向が見られた【表1】。また、教科（科目）の好感度の中学時代から高校時代への変化については、コース選択の有無による統一的な特徴は見られなかった【表2】。さらに、職業面の意識についてはコース選択しない方がより明確な傾向が見られたが、**進学面の意識については、コース選択のある学校の生徒の方が、より高い学校段階への進学を希望するようになる傾向**が見られた【図5、図6】。

表1 好感度・重視度の比較〔数学での結果〕

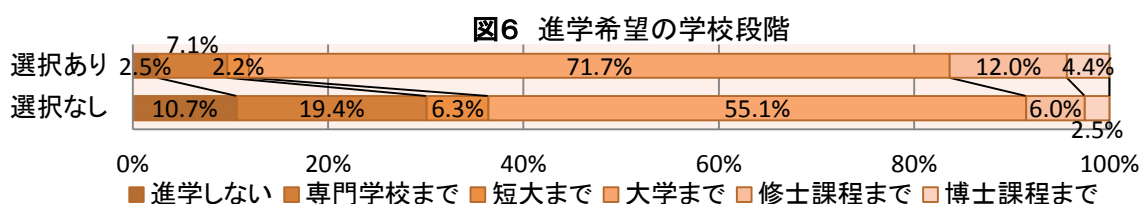
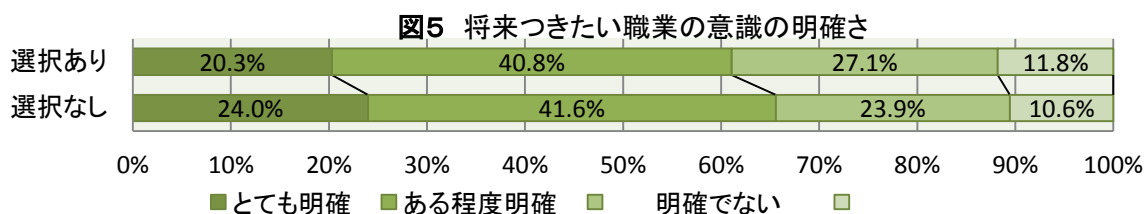
大学志願者割合	好感度		重視度	
	選択なし	選択あり	選択なし	選択あり
全体	2.79	3.12	2.57	2.64
9割以上	3.06	3.30	2.58	2.68
6割以上9割未満	2.96	3.10	2.52	2.60
3割以上6割未満	2.68	2.90	2.55	2.62
3割未満	2.64	2.76	2.60	2.60

注：黄色マークは統計的有意差が確認されたことを示し、高い方を赤太字で示した。（有意水準5%）

表2 好感度変化の比較〔数学での結果〕

大学志願者割合	全体	9割以上	6割以上 9割未満	3割以上 6割未満	3割未満
選択なし	-0.16	-0.34	-0.28	-0.24	0.15
選択あり	-0.23	-0.29	-0.24	-0.15	0.17

注：黄色マークは統計的有意差が確認されたことを示し、高い方を赤太字で示した。（有意水準5%）



イ. コース選択・分割時期の違いによる生徒の意識の違い（高校3年生）

教科（科目）の好感度や重視度は、2年時に選択して3年4月から分割した学校の生徒の方が、1年時に選択して2年4月から分割した学校の生徒に比べ、高くなる傾向が確認できた【表3、表4】。また、教科（科目）に対する好感度の中学時代から高校時代への変化については、ほとんどのケースにおいて分割・選択時期による差が確認できなかった【表5】。さらに、**職業意識の明確さ**については、選択・分割時期による**有意な分布の違いまでは確認できないものの、2年時に選択して3年4月から分割した学校の生徒の方がより明確な傾向**があった【図7】。進学を希望する学校段階については、選択・分割時期による有意な分布の違いまでは確認できないものの、2年時に選択して3年4月から分割した学校の生徒の方が、多様化している傾向が見られた【図8】。

表3 好感度の比較〔数学での結果〕

大学志願者割合	全体				理系				文系			
	選択時期		分割時期		選択時期		分割時期		選択時期		分割時期	
	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春
全体	3.12	3.23	3.13	3.29	3.56	3.67	3.56	3.69	2.68	2.82	2.69	2.89
9割以上	3.29	3.39	3.29	3.40	3.62	3.85	3.62	3.85	2.93	2.95	2.93	2.95
6割以上9割未満	3.10	2.99	3.11	2.99	3.57	3.40	3.58	3.40	2.60	2.61	2.61	2.61
3割以上6割未満	2.89	3.06	2.91	3.21	3.40	3.44	3.40	3.50	2.46	2.72	2.46	2.92
3割未満	2.70	3.04	2.70	3.04	3.44	3.48	3.44	3.48	2.43	2.35	2.43	2.35

注：黄色マークは統計的有意差が確認されたことを示し、高い方を赤太字で示した。（有意水準5%）

表4 重視度の比較〔数学での結果〕

大学志願者割合	全体				理系				文系			
	選択時期		分割時期		選択時期		分割時期		選択時期		分割時期	
	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春
全体	2.63	2.71	2.64	2.74	2.87	2.94	2.87	2.96	2.39	2.50	2.40	2.53
9割以上	2.68	2.71	2.68	2.72	2.90	2.95	2.90	2.96	2.44	2.48	2.45	2.48
6割以上9割未満	2.60	2.78	2.61	2.78	2.85	2.86	2.86	2.86	2.34	2.71	2.35	2.71
3割以上6割未満	2.61	2.71	2.61	2.81	2.86	2.95	2.86	3.01	2.39	2.51	2.39	2.61
3割未満	2.61	2.68	2.61	2.68	2.92	2.82	2.92	2.82	2.50	2.48	2.50	2.48

注：黄色マークは統計的有意差が確認されたことを示し、高い方を赤太字で示した。（有意水準5%）

表5 好感度変化（高校時代の好感度－中学時代の好感度）の比較〔数学での結果〕

大学志願者割合	全体				理系				文系			
	選択時期		分割時期		選択時期		分割時期		選択時期		分割時期	
	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春	1年	2年	2年春	3年春
全体	-0.24	-0.16	-0.24	-0.16	-0.25	-0.17	-0.25	-0.17	-0.23	-0.15	-0.23	-0.15
9割以上	-0.29	-0.21	-0.29	-0.21	-0.30	-0.20	-0.30	-0.20	-0.29	-0.22	-0.29	-0.22
6割以上9割未満	-0.24	-0.32	-0.24	-0.32	-0.24	-0.34	-0.24	-0.34	-0.25	-0.29	-0.25	-0.29
3割以上6割未満	-0.16	-0.12	-0.16	-0.12	-0.19	-0.17	-0.19	-0.17	-0.14	-0.08	-0.14	-0.08
3割未満	0.12	0.24	0.12	0.24	0.14	0.21	0.14	0.21	0.11	0.29	0.11	0.29

注：黄色マークは統計的有意差が確認されたことを示し、高い方を赤太字で示した。（有意水準5%）

図7 将来つきたい職業の意識の明確さ

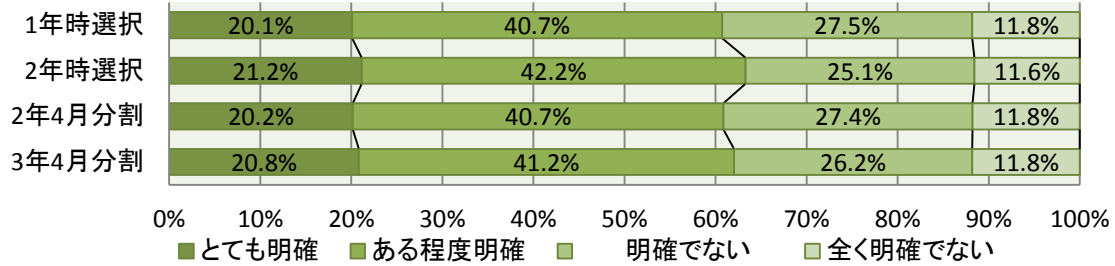
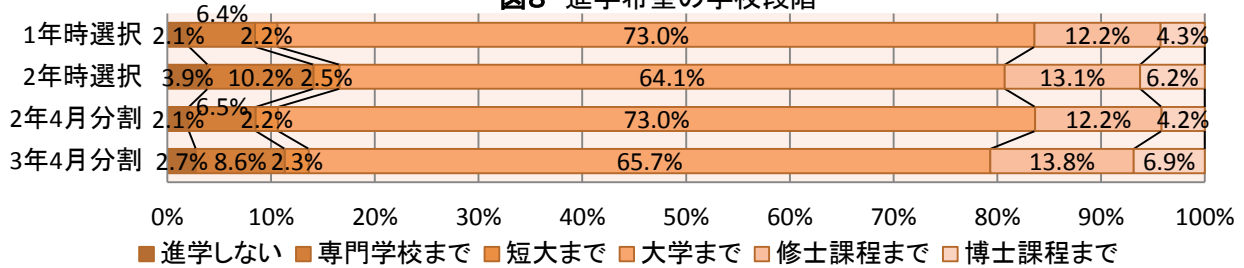


図8 進学希望の学校段階



ウ. 追加的に行った分析結果のまとめ

- ・ 上記ア、イより、**理系・文系のコース選択の有無や選択・分割時期については**、教科（科目）に対する生徒の好感度・重視度や進路意識を培う観点からは、**コース選択を設けないよりも設けた方が、また、1年時に選択して2年4月から分割するよりも、2年時に選択して3年4月から分割する場合の方がメリットは多い**と考えられる。

（注）今回の分析では、教科（科目）の習得度や実際の進学実績などは分析対象としていない。

- ・ 1年時にコースを選択して2年4月から分割することは、**早めの選択**により自分の将来に向けた準備の遂行や意識の明確化を図る狙いがあると考えられるが、**生徒の教科（科目）への意識や進路意識を見ると、その効果が必ずしも表れていない。**

このため、**生徒のキャリア意識の形成支援や、各教科（科目）における指導方法の改善などの面において、一層の工夫を図る必要がある**と考えられる。

(2) 全国意識調査結果に基づく学校訪問調査のまとめ

訪問調査から、効果が上がってきた要因と考えられる取組内容を整理すると、以下のようにまとめることができた。

	新しいと考えられる取組	これまでも尊重してきた取組
A 教育課程に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用的な力を意識した取組 ・わかる授業に向けての取組 ・体験を重視した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体の学習指導 ・問を発する生徒の育成 ・わかるまで指導徹底 ・授業についていけない生徒への配慮 ・探究活動の重視 ・基本的な学習習慣の確立 ・書かせる指導の徹底 ・授業のねらいの明確化
B 外部との連携等に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けての大学教官の研究講話 ・身近な課題に対するプロジェクト型学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者への発信 ・家庭との連携強化 ・面談や家庭訪問
A, B 双方にかかわること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が子供たちを育てていくという気概 ・体験的な課題研究の実施(文系も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がわからないでいることを放置しない(講習指導, 面談指導, こまめな試験, 添削指導, 学習テスト) ・体験的な大学訪問, 職場訪問 ・教師と生徒との信頼関係の構築

学校訪問調査の結果及び公開研究会から得られた示唆を整理すると、以下のとおりである。

【汎用的な力をはぐくむ取組】

○ことばを大切にしている学校が多い。

(教師と生徒や生徒と生徒による授業での巧みなやりとりや、ことばを紡ぎながら授業中に知が構成されていくような授業の進行・展開、「語り尽くす」学校文化、巧みな添削指導と的を射たコメント、イベントとしての生徒弁論大会)

○論理構成能力を全ての教科科目で意識的に育てて活用しようとしている。

(考え抜く楽しさの共有、学校文化、課題研究の発表)

【きめの細かいわかる授業に向けての取組】

○きめの細かいわかる授業に向けて丁寧な指導がなされている(他者との認め合い、授業についていけない生徒への配慮、失敗の許容)。また、教員間の関係が良好であることも見逃せない。

【学ぶ意義を実感できるような体験を重視した取組】

○学ぶ意義を実感できるような体験活動を重視し、主体的な学びを尊重しながら、他者と関わる取組(協働的な取組)を多く取り入れている。